

第40回(令和8年)地域医療現地研究会

集え! ど真ん中、岐阜へ

語れ! わが地域の地域包括医療・ケアを

育め! 地域の安心とワクワクを



岐阜県
マスコットキャラクター
ミナモ

ミライに向けて
ナカマと共に
モットもっと国保直診

日本三大盆踊り 郡上おどり

郡上本染 鯉のぼり寒ざらし

郡上八幡城

開催日

令和8年6月12日(金)・13日(土)

会場

郡上市総合文化センター(郡上市):開講式
ホテルグランヴェール岐山(岐阜市):地域医療交流会
じゅうろくプラザ(岐阜市):全体討議・閉講式

研究施設

県北西部地域医療センター 国保白鳥病院(郡上市)
県北西部地域医療センター 国保和良診療所(郡上市)



清流を泳ぐ鮎

ぎふ長良川の鶴飼

主催

公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会・公益社団法人国民健康保険中央会
岐阜県国民健康保険診療施設協議会・岐阜県国民健康保険団体連合会



RESEARCH FACILITIES

県北西部地域医療センター 国保白鳥病院

「院長定年後、後任がないみたい…」 「医師確保もままならないし…」 「近くに民間病院さんもあるし…」 。町村合併と医師の初期研修制度の導入によって誘発された医師不足に直面した当時の当院の状況です。今ではここに「医療介護スタッフの確保も困難」「人口減で患者減が…」といったことも加わっており、これが全国の国保直診を取り巻く状況ではないでしょうか。県北西部地域医療センター国保白鳥病院は、郡上市北部にある国保病院で、昭和26年に白鳥町国民健康保険白鳥病院として開設されたことから現在でも「町病院」と呼ばれ、地域の方々にとって身近な病院として親しまれています。以前からデイケア、居宅介護支援事業所、訪問看護、訪問介護、透析センター、健康サポートセンターを併設し、地域包括ケアを意識しながら一般急性期医療を主に提供してきました。しかし、合併と医師不足の影響で、その後の運営をどのように進めるかが大きな課題となりました。そこで、平成27年には県北西部地域医療センターを立ち上げ、その基幹医療機関としました。これにより、へき地医療や在宅医療を主たる役割と位置づけ、病床も結核病床4床を含む64床から46床に減床するとともに、全病床を地域包括ケア病床、つまり地域包括ケア病院化し、現在は地域包括ケアをメインに、ポストアキュート、サブアキュート、在宅復帰支援を主とした病院として運営しています。こうした運営に賛同する医師の赴任により医師の確保を図るとともに、医学生や研修医の教育の場にもなっています。「地域に住むすべての人が、その人らしく健康で幸せに暮らせるお手伝いをします」という理念を掲げ、スタッフ一同ができるだけ地域に目を向け、住民がこの地域で暮らし続けるための支援者として活動しています。なお、県北西部地域医療センターは、平成27年に岐阜県北西部地域（郡上市、高山市荘川地域、大野郡白川村）の地域医療を支える組織として発足し、令和元年には地域医療連携推進法人となりました。「目の前の人、目の前の家族、目の前の地域のQOL（生活の質）を支えます」を理念に掲げ、少子高齢化と人口減少のなか、社員となっている自治体（郡上市、高山市、白川村）の地域医療の確保と継続のために、2市1村が連携した広域ネットワークによる地域医療体制の構築に取り組んでいます。地域の中での役割の明確化と広域ネットワークの活用が当院の特徴といえます。あなたは、こうした取り組みから何を感じるでしょうか。



県北西部地域医療センター 国保白鳥病院
岐阜県郡上市白鳥町為真 1205-1

県北西部地域医療センター 国保和良診療所

RESEARCH FACILITIES



県北西部地域医療センター 国保和良診療所
岐阜県郡上市和良町沢 882 番地

「予防を主として治療を従とする」。これは昭和30年の開設以来、初代所長の故・中野重男先生が掲げたスローガンです。和良村村史には、次のように記載されています。

「包括医療という言葉は、中野先生の造語である。『予防』『治療』『社会復帰療法』『健康増進』という四つの医学を融合させたもの、つまり、全村民健康管理を中心として、揺り籠から墓場まで、ママで達者でいられる医事体制のことである。（中略）『国保の直診は単なる医療施設ではない。それは保健施設だ』…」。

時代の流れとともに社会情勢は変化しましたが、このスローガンや哲学は当施設の職員だけでなく、この地域で暮らす住民の間にも今なお脈々と受け継がれています。県北西部地域医療センター国保和良診療所は、郡上市東部に位置するへき地診療所で、昭和30年に国保直診診療所として開設されました。昭和41年には30床の病院となり、昭和51年には60床へ増床、昭和53年には歯科、平成6年には介護老人保健施設、平成12年には保健福祉歯科総合施設を併設し、「小さな村の大きな病院」として旧和良村の保健・医療・福祉・介護のすべてに包括的に対応する施設として運営してきました。しかし、少子高齢化と人口減少の影響は、小さな村にいち早く押し寄せ、それに対処すべく平成19年に8床の有床診療所（現在は休床中）としました。これは単なる縮小ではなく、介護老人保健施設の増床や、合併町村内の国保診療所ネットワークである「郡上市地域医療センター」の設立と併せて、引き続き地域医療の提供を続けるための取り組みでした。さらに、平成27年からは郡上市地域医療センターを発展的に拡大し、現在の県北西部地域医療センターを設立し、センターの1施設としてこの地域の医療を支えています。脈々と受け継がれる哲学と、時代に応じた柔軟な対応、それこそが当施設の大きな特徴といえます。あなたは、その歴史と現在の姿から何を感じるでしょうか。

「小さな村の大きな病院」として旧和良村の保健・医療・福祉・介護のすべてに包括的に対応する施設として運営してきました。しかし、少子高齢化と人口減少の影響は、小さな村にいち早く押し寄せ、それに対処すべく平成19年に8床の有床診療所（現在は休床中）としました。これは単なる縮小ではなく、介護老人保健施設の増床や、合併町村内の国保診療所ネットワークである「郡上市地域医療センター」の設立と併せて、引き続き地域医療の提供を続けるための取り組みでした。さらに、平成27年からは郡上市地域医療センターを発展的に拡大し、現在の県北西部地域医療センターを設立し、センターの1施設としてこの地域の医療を支えています。脈々と受け継がれる哲学と、時代に応じた柔軟な対応、それこそが当施設の大きな特徴といえます。あなたは、その歴史と現在の姿から何を感じるでしょうか。